

令和４年度 第４回丸亀市産業振興推進会議 (会議録)	
日 時	令和４年 11 月 17 日（月）午後２時～午後３時半
場 所	丸亀市生涯学習センター４階 講座室１
出席者	(丸亀市産業振興推進会議 会長) 小山会長（京都橘大学経済学部 准教授）
	(丸亀市産業振興推進会議 委員) 21 名中、12 名出席 梶谷委員、桑田委員、菅沼委員、杉尾委員、西川 平二委員、 馬場委員、濱中委員、東原委員、藤井委員、松岡委員、 真鍋 宣訓委員、矢野委員 (五十音順)
	(丸亀市産業文化部 産業観光課) 平尾課長、志村副課長、逢坂観光担当長、村山商工労政担当長、 横井主任、吉田副主任 (丸亀市産業文化部 農林水産課) 川池副課長 (丸亀市産業文化部 文化課) 石川副課長 (丸亀市農業委員会) 大西次長
	(アルパック) 山部氏
欠席者	内海委員、奥田委員、柴田委員、筒井委員、西川 正則委員、 土井委員、松下委員、松原委員、真鍋 有紀子委員（五十音順）
傍聴人	なし
議 題	1. 挨拶（小山会長） 2. 本日の会議進行について 3. 議事 （１）丸亀市産業の特徴と課題について （２）基本理念（案）について （３）産業振興の基本的な考え方について （４）施策の方向性について （５）その他 4. 閉会

会 議 の 概 要

1. 挨拶

京都橘大学 小山会長より挨拶

2. 本日の会議進行について

事務局より会議進行に関する説明を実施。

3. 議事

(1) 丸亀市産業の特徴と課題について

アルパックより資料1のうち丸亀市産業の特徴と課題に関する説明

(小山会長)

- ・地域経済の特徴について、統計整理については、最新の数値を追加したり、表現を統一したりなど、今後調整を実施していく予定である。また廃業率についても、適当なデータがあれば追加していく。

- ・産業の課題については、前回までの産業振興会議の議論を反映したものである。

(梶谷委員)

- ・国勢調査のデータや経済センサスなど、最新のデータを掲載できるのであれば、費用がかからない範囲で構わないのでお願いしたい。

(小山会長)

- ・指摘のとおりである。可能なかぎり掲載する。

(矢野委員)

- ・市内ホテル4社の数値は、具体的にはどこのホテルを示しているのか。

(アルパック)

- ・具体的な場所は公開されていない。

(東原委員)

- ・2060年の推計人口が8.5万人と記載されているが、この数値はどこから出てきたのか。

(アルパック)

- ・丸亀市総合計画に記載されているデータだが、元データは国立社会保障・人口問題研究所の推計データだと思われる。

(藤井委員)

- ・人口の部分は重要であり、年齢別の人口構成などは示してもらいたい。

(小山会長)

- ・現在のデータにもすでに年齢3区分での人口動態は入っている。

(松岡委員)

- ・島しょ部の状況だが、牛島において2020年に15歳未満が増えていることは注目すべきである。その理由は分かるだろうか。

(事務局)

- ・推測にはなるが、移住者が増えたことが要因だと思われる。

(梶谷委員)

- ・同じく島しょ部において、「いずれの地域も」という部分は、少し表現を工夫した方がよいだろう。すべての島で人口が減少しているわけではない。

(馬場委員)

- ・コロナ禍の前後でデータは大きく変わるだろう。コロナが流行した 2019 年以降のデータは本当に必要なのか。特異値だという見方もある。

(矢野委員)

- ・うちわ産業についても、何かとコロナ禍の影響を指摘されるが、事業所数や従業者数の減少は以前から続いていた。コロナ前の状況は丁寧に把握すべきだろう。

(眞鍋 宣訓委員)

- ・特異値の処理は重要である。コロナ禍については、すでに 3 年続いていることから、現状における産業構造自体が変化している可能性がある。そのため、コロナ禍の状況を一度飲み込んだうえで、データを解釈することが重要ではないか。

(小山会長)

- ・その対応で問題ないと思われる。

(眞鍋 宣訓委員)

- ・地域経済循環率の比較は重要だが、2018 年の 78.5%という数値が良いのか悪いのか分かりづらい。香川県と県庁所在地の高松市だけではなく、もう少し視野を広げて周辺自治体や同規模の自治体も含めてはどうだろうか。

(小山会長)

- ・可能な範囲で対応すればよい。

(桑田委員)

- ・課題 3 の中心市街地については、中心市街地の状況が分かるデータがあればよいのではない。また、課題 4 の一次産業の維持・発展についても、根拠となるデータはあるだろうか。質問だが、農業において、従事する人口の減少＝農産物の生産量減少と捉えてよいのか。

(小山会長)

- ・データの部分については、必要なものは入れ込んでいけるとよい。必要に応じて、データの追加は検討する。
- ・農業については、人口が減少すれば、生産量が減るというわけではない。生産効率なども生産量に係る問題である。

(松岡委員)

- ・これまで国策として、機械化による効率化や大規模農家への補助金の拡充など、選択と集中により農業振興を図ってきた。その結果、就農人口は減少しているが、生産量はそれほど減少していない。

(2) 基本理念（案）について

アルバックより資料説明1のうち基本理念（案）に関する説明

（矢野委員）

- ・基本理念については、今の表現でよいだろう。
- ・前回の推進会議が終了した後に、ヒアリング記録を読ませてもらったが、丁寧に膨大な量のヒアリングをしたことは良かったと思われる。そうしたところから言葉を紡ぎだしていくことが重要である。

（小山会長）

- ・調査手法に関する指摘だが、ヒアリングは丁寧に実施したことで様々な声を拾うことができる。アンケート調査の実施方法についても、次回計画策定では工夫した方がよいかもしれない。

（西川 平二委員）

- ・基本理念については、非常に綺麗に整理されている。
- ・課題については、非常に多岐に渡っているが、これらをどうやって解決していくのかという部分を明示していく必要がある。課題についても、重み付けができるといいし、それを解決する政策についても、どこに力点を置いていくのか分かるとよいだろう。

(3) 産業振興の基本的な考え方について

アルバックより資料1のうち産業振興の基本的な考え方に関する説明

（菅沼委員）

- ・P21の図については、印刷が抜けている部分があるので、確認してもらいたい。
- ・P21連携先については、教育機関なども追加してもらえるとありがたい。教育機関としても連携できる部分はたくさんある。

（梶谷委員）

- ・基本的な考え方5について、「地域間連携」とあるが、この「地域」というのは、周辺自治体という理解で良いか。

（小山会長）

- ・その理解で問題ない。周辺自治体との連携は、ヒアリングの中でも重要な視点として多く言及があった部分である。

（小山会長）

- ・これで第1章～第4章までの確認は完了した。最終的なデータの追加・調整や文言の修正等は、事務局と座長に一任ということでお願いしたい。

※委員より異論なし

(4) 施策の方向性について

アルバックより資料2について説明

(松岡委員)

- ・後継者、担い手育成について、就農希望者支援は大切だが、希望者はわずかであり、就農したとしても農業を担えるとは思えない。
- ・集落営農や法人設立への支援とあるが、次世代に承継できるような法人でなければ意味がない。集落営農法人が解散した場合のリスクは計り知れず、農地を返還された農家は耕作機械等を処分しているため管理もできず、耕作放棄地の大量発生に繋がる。現在の農業を守ってきた小規模・家族経営の兼業農家が継続できる支援をすることが大切だ。遊休農地の活用方法として、花の種を農家に配布し、遊休農地に撒いてもらうことというのはどうだろうか。丸亀は花がきれいという町づくりにもなると思う。
- ・生産環境の適正化について、耕作放棄地の活用を挙げているが、現実的ではないため、「遊休農地の活用」とすべきだ。
- ・基盤設備の推進は大切なことである。進入路が狭いために大型の機械が通れず、農地を借りてもらえないというような問題もでており、農道や進入路の整備が必要となっている。また、稲作の期間しか水を引けないため、冬場に野菜がつかれない等の問題もあり、労力軽減を図るうえでも、いつでも水が利用できるパイプ配管が必要である。
- ・生産の増進と収益力の向上において、経営の安定化支援には労力や機械化の支援も大切である。
- ・販路の拡充のうち、農水産物や加工品の販路拡大においては、一番には消費の拡大が必要であり、消費者が国産の農水産物を消費しようという意識改革が何よりも大切であり、消費者への広報活動を行うという視点を取り入れてもらいたい。
- ・体験機会の拡充については大いに賛成であり、学校・教育委員会に人間にとって一番大切な第一次産業についての体験学習を拡大するよう要請する取り組みが大切だ。子供たちに対して、食と農業の大切さを伝える食農教育の推進とあわせて、市内全部の小学校で実施できるよう行政主導で働きかけて欲しい。

(梶谷委員)

- ・先ほどの基本的な考え方が幹になると理解している。そのため、想定される施策などがどれに対応しているのか、分かりやすくしてはどうか。

(小山会長)

- ・重要な視点であるので、事務局の方で検討してもらいたい。

(矢野委員)

- ・柱と枝の部分があるが、今日はまず柱の部分だけを議論する場だと理解している。枝の部分については、第5回の推進会議で議論してはどうか。

(小山会長)

- ・その流れで問題ないだろう。第５回が集中的に議論する場になる。

(西川 平二委員)

- ・現在は産業分野別に柱と施策が記載されているが、いずれの産業にとっても重要な柱は強調してもよいだろう。

(小山会長)

- ・先ほどの梶谷委員からの指摘ともつながる部分である。これまで部会ごとに議論してきたので、そこを変えるのは難しいが、見せ方で上手くカバーできるとよい。

(杉尾委員)

- ・共通する課題としては、事業承継や後継者問題の解消などになるだろう。それらを柱や想定される施策の部分で上手く表現できるとよい。

(事務局)

- ・想定される施策の中に上手く取り入れるよう努める。

(小山会長)

- ・これまでの議論を通じて、施策の柱については、本日の資料２に記載された表現とさせて頂きたい。

(５) その他

事務局より、第５回丸亀市産業推進会議の日程や内容等の案内を実施。

午後３時３０分 閉会

(以上)